

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月13日
【四半期会計期間】	第5期第3四半期(自平成25年7月1日至平成25年9月30日)
【会社名】	サントリー食品インターナショナル株式会社
【英訳名】	Suntory Beverage & Food Limited
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 鳥井 信宏
【本店の所在の場所】	東京都中央区京橋三丁目1番1号
【電話番号】	03(3275)7022
【事務連絡者氏名】	専務取締役 経営企画本部長 肥塚 眞一郎
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区京橋三丁目1番1号
【電話番号】	03(3275)7022
【事務連絡者氏名】	専務取締役 経営企画本部長 肥塚 眞一郎
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第5期 第3四半期 連結累計期間	第4期
会計期間	自2013年1月1日 至2013年9月30日	自2012年1月1日 至2012年12月31日
売上高(百万円)	837,157	992,160
経常利益(百万円)	48,493	54,033
四半期(当期)純利益(百万円)	24,516	23,385
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	65,073	61,799
純資産額(百万円)	546,629	204,275
総資産額(百万円)	1,236,611	844,450
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	99.26	108.27
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-
自己資本比率(%)	41.6	22.5

回次	第5期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自2013年7月1日 至2013年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	40.67

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含まれていません。

3. 当社は、第4期第3四半期連結累計期間については四半期連結財務諸表を作成していないため、第4期第3四半期連結累計期間に係る主要な経営指標等の推移については記載していません。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

5. 2013年4月16日付で普通株式1株につき500株の株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しています。

## 2【事業の内容】

### [ 国内セグメント ]

当第3四半期連結累計期間において、自動販売機チャネルで清涼飲料の販売を担当していた北海道ペプシコーラ販売(株)、東北ペプシコーラ販売(株)、日本ペプシコーラ販売(株)、中部ペプシコーラ販売(株)、近畿中四国ペプシコーラ販売(株)、南九州ペプシコーラ販売(株)が、4月1日付で日本ペプシコーラ販売(株)を存続会社として吸収合併し、同日付で商号をサントリービバレッジサービス(株)に変更しました。

### [ 国際セグメント ]

当社グループは、当第3四半期連結累計期間においてベトナムにおける清涼飲料の製造・販売事業に進出しました。これに伴い、4月に、PEPSICO INTERNATIONAL - VIETNAM COMPANYが子会社に加わりました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、2013年5月29日提出の有価証券届出書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当社は、2013年9月9日開催の取締役会において、GlaxoSmithKline plcの飲料事業の一部を譲り受けることについて決議を行い、同日付で売買契約を締結しました。

詳細は、「第4 経理の状況 1. 四半期連結財務諸表 追加情報」に記載のとおりであります。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

なお、第2四半期連結累計期間より金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との数値比較を記載していません。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（2013年1月1日から2013年9月30日）における世界経済は、依然として、欧州債務問題等による景気の下振れリスクの懸念があるものの、緩やかな回復傾向が継続し、底堅さも見られました。わが国経済においても、円安・株高基調を背景に、企業収益の改善や個人消費の持ち直しが見られる等、景気は緩やかに回復しつつあります。

このような状況の中、当社グループは、ブランド強化を軸に需要の拡大を図りました。

国内セグメントでは、重点ブランドでの新商品の投入や盛夏に向けたブランド横断型の消費者キャンペーンの実施等、積極的なマーケティング活動により事業規模の拡大と競争力の強化を図るとともに、コスト改善による収益性向上に注力しました。また、国際セグメントでも、引き続き各国での重点ブランドの更なる育成及び新興国での新商品の投入等による事業拡大、収益性の向上に取り組みました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は8,372億円、営業利益は522億円、経常利益は485億円、四半期純利益は245億円となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

#### [ 国内セグメント ]

「BOSS」は、主力商品（「レインボーマウンテンブレンド」「贅沢微糖」「無糖ブラック」「カフェオレ」「超」）に加え、華やかな香りが特長の新商品「グランアロマ」を投入するとともに、特製の「ボスジャン」が当たる消費者キャンペーン等の販売促進活動を実施しました。これらの活動により、前年割れと推定される缶コーヒー市場の中で、当社は前年同期を上回る販売数量を達成しました。

「伊右衛門」ブランドは、盛夏に向けた積極的なマーケティング活動により、「伊右衛門」「贅沢冷茶」の2本柱が引き続き好調で、販売数量が大きく伸長しました。

「サントリーウーロン茶」は、スーパーマーケットと協働した販売促進活動を継続して実施しましたが、前年同期を若干下回る販売数量となりました。

「サントリー天然水」は、夏場の大幅な需要増に加え、健康志向の高まりを背景に伸長する無糖炭酸水市場に「サントリー 南アルプスの天然水 スパークリング」を新発売し、更なるブランド力強化を図った結果、販売数量が大幅に伸長しました。

「PEPSI」は、特定保健用食品「ペプシ スペシャル」のリニューアル、ゼロカロリーの訴求強化等によりユーザー拡大を図った結果、販売数量が前年同期を大きく上回りましたが、引き続き、来期に向けてブランド強化を図ります。

果汁入り炭酸飲料「オレンジーナ」は前年を若干下回る販売数量となったものの、引き続きご好評いただき、「オンリーワン」の価値をもつ商品としての地位を着実に築きつつあります。

また、機能性飲料「GREEN DA・KA・RA」は、夏場の熱中症対策飲料として支持をいただいたこと等により、販売数量が極めて大幅な伸びとなりました。

小容量サイズの商品の販売促進活動についても全力を挙げて取り組み、前年を大きく上回る販売数量を達成しましたが、更に活動を強化継続していきます。

また、上記活動により売上の増大を図ると同時に、引き続き、製造原価及び物流費等のコスト革新を行い、収益性向上に向けた施策を進めました。

これらの結果、国内セグメントの売上高及びセグメント利益は、次のとおりとなりました。

国内セグメント売上高	5,420億円
国内セグメント利益	324億円

#### [ 国際セグメント ]

国際セグメントでは、欧州、オセアニア、アジア、米州において、競合が激化する等、厳しい環境が続く中、各エリアでの重点ブランドの強化等に取り組みました。

欧州では、依然として厳しい経済環境が続いていますが、オレンジナ・シュウェップス・グループが、「Orangina」「Schweppes」等で、積極的なマーケティング投資を継続し、ブランドの強化を図った結果、販売数量が回復しつつあります。

オセアニアでは、フルコア・グループが、重点ブランドであるエナジードリンク「V」の販売促進活動を強化しました。また、ニュージーランドにおける「PEPSI」等の炭酸飲料の好調な販売も寄与し、フルコア・グループ全体で販売数量が伸長しました。

アジアでは、健康食品・加工食品を製造・販売するセレボス・グループが、タイにおける健康食品販売を中心に堅調に推移しました。サントリーガルーダ・グループでは、ゼリードリンク「Okky」等が引き続き牽引するとともに、サントリーブランドの緑茶飲料「みらい」や「MYTEA [ウーロン茶]」も売上増に寄与しました。

また、ベトナムにおいても、PepsiCo, Inc.との合弁会社が同国内初となるサントリーブランド「TEA+ [ウーロン茶]」を発売する等、着実に事業規模を拡大しました。

米州では、Pepsi Bottling Ventures LLCが事業エリアの再編を実施し、更なる事業基盤強化に取り組みました。

なお、9月には、英国の象徴的なブランドである「Lucozade」「Ribena」の製造・販売事業を譲り受けることについて、GlaxoSmithKline plcと合意しました。グローバル戦略における成長と事業基盤の強化、収益力向上を目指し、当社グループでの事業開始に向けて準備を進めます。

また、当期においてもフルコア・グループでのペットボトル内製化及び新物流倉庫の本稼働等、国内で培った開発技術やコスト改善のためのノウハウを海外へ展開し、グループシナジーの強化による品質向上及び収益力強化に取り組みました。

これらの結果、国際セグメントの売上高及びセグメント利益は、次のとおりとなりました。

国際セグメント売上高	2,952億円
国際セグメント利益	370億円

#### (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金、受取手形及び売掛金、商品及び製品、有形固定資産、無形固定資産等の増加により、前連結会計年度末に比べ3,922億円増加して1兆2,366億円となりました。

負債は、有利子負債が減少した一方、支払手形及び買掛金等の増加により、前連結会計年度末に比べ498億円増加して6,900億円となりました。

純資産は、新株式の発行による資本金及び資本剰余金の増加等により、前連結会計年度末に比べ3,424億円増加して5,466億円となりました。

#### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発活動の金額は、48億円です。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

## (5) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、PEPSICO INTERNATIONAL - VIETNAM COMPANYを子会社化したことに伴う主要な設備の増加は次のとおりです。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員 数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	工具、器 具及び備 品	土地 (面積㎡)	その他	合計	
PEPSICO INTERNATIONAL - VIETNAM COMPANY	本社他 (ベトナム ホーチミン 他)	国際	食品製造設備 その他設備	4,396	12,481	92	2,053 (317,991)	1,876	20,900	2,327

- (注) 1. 金額には消費税等は含まれていません。  
 2. 各事業所には、事務所、倉庫等を含んでいます。  
 3. 帳簿価額には、建設仮勘定は含まれていません。  
 4. 現在休止中の主要な設備はありません。

前連結会計年度末において計画であった主要な設備の新設について、当第3四半期連結累計期間に完了したものは次のとおりです。

事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	金額 (百万 円)	完了年月
Pepsi Bottling Ventures LLC Raleigh Eastern倉庫	米国 ノースカロライナ 州	国際	物流倉庫設備	1,264	2013年3月
サントリー プロダクツ(株) 木曽川工場	愛知県犬山市	国内	製造設備	1,690	2013年7月
サントリー-食品工業(株) 多摩川工場	東京都稲城市	国内	製造設備	1,620	2013年7月

当第3四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設計画は次のとおりです。

事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
サントリー プロダクツ(株) 高砂工場	兵庫県高砂市	国内	製造設備	3,710	-	自己資金	2013年11月	2014年5月	(注) 2

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれていません。  
 2. 完成後の清涼飲料生産能力は、1,100万ケース/年です。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	480,000,000
計	480,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2013年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2013年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	309,000,000	309,000,000	東京証券取引所 市場第一部	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式であ り、単元株式数は 100株であります。
計	309,000,000	309,000,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2013年7月2日 (注)	93,000,000	309,000,000	138,384	168,384	138,384	145,884

(注) 2013年7月2日を払込期日とする国内における有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)並びに欧州及び米国を中心とする海外市場(ただし、米国においては米国証券法に基づくルール144Aに従った適格機関投資家に対する販売のみとする。)における募集によるものです。なお、当該募集における発行価格は3,100円、引受価額は2,976円、資本組入額は1,488円です。

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は、第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7)【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2013年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(相互保有株式) 普通株式 600	-	権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる株 式であり、単元株式数は 100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 308,988,500	3,089,885	同上
単元未満株式	普通株式 10,900	-	-
発行済株式総数	309,000,000	-	-
総株主の議決権	-	3,089,885	-

## 【自己株式等】

2013年9月30日現在

所有者の氏名又は 名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(相互保有株式) 関東フーズサービ ス(株)	栃木県小山市城北 二丁目11番地10	600	-	600	0.00
計	-	600	-	600	0.00

## 2【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しています。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2013年7月1日から2013年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2013年1月1日から2013年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けています。

### 3．最初に提出する四半期報告書の記載上の特例

当四半期報告書は「企業内容等開示ガイドライン24の4の7-6」の規定に準じて前年同四半期との対比は行っていません。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	26,069	284,945
受取手形及び売掛金	114,470	140,263
商品及び製品	27,731	40,842
仕掛品	2,402	3,558
原材料及び貯蔵品	14,621	19,945
その他	33,988	42,827
貸倒引当金	389	410
流動資産合計	218,895	531,972
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	235,338	271,201
<b>無形固定資産</b>		
のれん	349,929	367,306
その他	10,205	29,943
無形固定資産合計	360,135	397,250
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	15,781	17,495
その他	14,996	18,224
貸倒引当金	797	836
投資その他の資産合計	29,981	34,882
<b>固定資産合計</b>	625,455	703,333
繰延資産	99	1,305
<b>資産合計</b>	844,450	1,236,611

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	93,465	113,552
電子記録債務	14,663	18,121
短期借入金	311,214	156,873
未払法人税等	5,103	6,544
賞与引当金	1,828	4,197
リース債務	1,644	1,578
その他	109,265	148,366
流動負債合計	537,186	449,235
固定負債		
長期借入金	30,483	156,913
退職給付引当金	6,815	6,504
役員退職慰労引当金	32	22
リース債務	3,247	2,893
その他	62,410	74,413
固定負債合計	102,988	240,747
負債合計	640,174	689,982
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	168,384
資本剰余金	54,395	192,779
利益剰余金	122,609	134,391
株主資本合計	207,004	495,554
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	429	821
繰延ヘッジ損益	435	442
為替換算調整勘定	17,521	17,745
その他の包括利益累計額合計	16,656	19,009
少数株主持分	13,927	32,064
純資産合計	204,275	546,629
負債純資産合計	844,450	1,236,611

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

( 単位：百万円 )

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	837,157
売上原価	370,410
売上総利益	466,747
販売費及び一般管理費	414,536
営業利益	52,210
営業外収益	
受取利息	295
持分法による投資利益	365
その他	765
営業外収益合計	1,426
営業外費用	
支払利息	3,692
その他	1,451
営業外費用合計	5,144
経常利益	48,493
特別利益	
受取保険金	1,049
組織再編益	2,281
その他	54
特別利益合計	3,385
特別損失	
固定資産廃棄損	1,820
組織再編関連費用	1,831
その他	138
特別損失合計	3,790
税金等調整前四半期純利益	48,088
法人税等	20,372
少数株主損益調整前四半期純利益	27,716
少数株主利益	3,199
四半期純利益	24,516

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	27,716
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	391
繰延ヘッジ損益	6
為替換算調整勘定	36,482
持分法適用会社に対する持分相当額	475
その他の包括利益合計	37,356
四半期包括利益	65,073
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	60,182
少数株主に係る四半期包括利益	4,890

## 【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

## 連結の範囲の重要な変更

第1 四半期連結会計期間より、(株)サンバンドは連結財務諸表に及ぼす重要性が増したため、連結の範囲に含めています。

第2 四半期連結会計期間において、PEPSICO INTERNATIONAL - VIETNAM COMPANY 等は、株式の新規取得により連結子会社となったため、連結の範囲に含めています。また、北海道ペプシコーラ販売(株)、東北ペプシコーラ販売(株)、中部ペプシコーラ販売(株)、近畿中四国ペプシコーラ販売(株)及び南九州ペプシコーラ販売(株)は、日本ペプシコーラ販売(株)(現、サントリービバレッジサービス(株))と合併したため、連結の範囲から除外しています。

## 【追加情報】

## (重要な事業の譲受け)

当社は、2013年9月9日開催の取締役会において、GlaxoSmithKline plc(以下「GSK社」という。)の飲料事業の一部を譲り受けることを決議し、同日付で売買契約を締結しました。なお、当社は、当該事業を承継するための会社を新たに取得し、子会社とする予定です。

## (1) 当該事業の譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金の額及び事業の内容

## (イ) 名称

GlaxoSmithKline plc

## (ロ) 住所

980 Great West Road, Brentford, Middlesex, UK

## (ハ) 代表者の氏名

Andrew Witty (CEO)

## (ニ) 資本金の額

2,104億円(1,349百万英ポンド)(2012年12月末日現在)

(為替レート: 1英ポンド=156円、以下同じ)

## (ホ) 事業の内容

医療用医薬品、ワクチン、一般用医薬品、コンシューマー向けヘルスケア製品の研究開発、製造、販売

## (2) 当該事業の譲受けの目的

当該事業の譲受けにより、英国飲料市場を中心とした高いシェアと歴史的・象徴的価値を持つブランドと英国を主軸とした新たな事業基盤を獲得し、欧州全体での更なる販売拡大と、当社グループの企業価値の向上を図るものです。また、全世界でGSK社が有するブランド販売権を引き継ぐことにより、新興国等での新たな事業基盤の獲得と同地域での当社グループブランドの販売拡大を目指すものです。

## (3) 当該事業の譲受けの契約の内容

## (イ) 譲り受ける事業の内容

「Lucozade(ルコゼード)」「エナジードリンク・スポーツドリンク」と「Ribena(ライビーナ)」

(フルーツジュース)の製造・販売事業

## (ロ) 譲受け日

2013年12月末を予定しています。

## (ハ) 譲受け対象資産

「Lucozade」と「Ribena」の製造・販売事業に関する資産(商権、製造設備、人的資産、知的財産、関連契約等)

## (ニ) 譲受け対価及び決済方法

譲受け対価は、2,106億円(1,350百万英ポンド)(予定)であり、現金による決済を予定しています。

## (繰延資産の償却方法)

株式交付費は、株式交付のときから定額法(3年)により償却しています。

## 【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む)及びのれんの償却額は、次のとおりです。

	当第3四半期連結累計期間 (自 2013年1月1日 至 2013年9月30日)
減価償却費	31,573
のれんの償却額	17,223

(株主資本等関係)

当第3四半期連結累計期間(自 2013年1月1日 至 2013年9月30日)

## 1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の 総額 (百万 円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2013年3月29日 定時株主総会	普通株式	12,915	29,896.50	2012年12月31日	2013年3月29日	利益剰余金

## 2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、国内における有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)並びに欧州及び米国を中心とする海外市場(ただし、米国においては米国証券法に基づくルール144Aに従った適格機関投資家に対する販売のみとする。)における募集による新株式発行を行い、2013年7月2日に払込が完了しています。

この結果、当第3四半期連結会計期間において、資本金及び資本剰余金がそれぞれ138,384百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末における資本金が168,384百万円、資本剰余金が192,779百万円となっています。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内	国際 (注)4			
売上高					
外部顧客への売上高	542,004	295,152	837,157	-	837,157
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	736	736	736	-
計	542,004	295,889	837,894	736	837,157
セグメント利益 (注)3	32,400	37,034	69,434	17,223	52,210

(注)1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない、のれん償却額です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

3. 報告セグメントごとのEBITDAは次のとおりです。

(単位:百万円)

	国内	国際	合計
セグメント利益	32,400	37,034	69,434
減価償却費	22,116	9,457	31,573
EBITDA	54,516	46,491	101,007

EBITDAは、セグメント利益に減価償却費を加えた数値です。

4. 国際セグメントを、現地法人グループの親会社の所在地別に分類した売上高、利益及びEBITDAの内訳は次のとおりです。

(単位:百万円)

	欧州	オセアニア	アジア	米州	国際計
売上高					
外部顧客への売上高	120,856	28,708	90,761	54,827	295,152
セグメント間の内部売上 高又は振替高	736	-	-	-	736
計	121,592	28,708	90,761	54,827	295,889
セグメント利益	21,676	3,176	6,303	5,877	37,034
減価償却費	3,222	925	3,268	2,040	9,457
EBITDA	24,898	4,102	9,571	7,917	46,491

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。



## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりです。

	当第3四半期連結累計期間 (自 2013年1月1日 至 2013年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	99.26円
(算定上の基礎)	
四半期純利益金額(百万円)	24,516
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	24,516
普通株式の期中平均株式数(株)	247,000,000

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 当社は、2013年4月16日付で普通株式1株につき500株の株式分割を行いました。当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しています。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2013年11月7日

サントリー食品インターナショナル株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	東 誠 一 郎	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	川 崎 洋 文	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	平 田 英 之	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているサントリー食品インターナショナル株式会社の2013年1月1日から2013年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2013年7月1日から2013年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2013年1月1日から2013年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、サントリー食品インターナショナル株式会社及び連結子会社の2013年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 強調事項

追加情報に記載されているとおり、会社は、2013年9月9日開催の取締役会において、GlaxoSmithKline plcの飲料事業の一部を譲り受けることを決議し、同日付で売買契約を締結した。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。